

鶴見区区政会議 平成28年度第2回防犯・防災部会

1 日時

平成28年9月30日（金） 19時00分～20時59分

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

宗宮部会長、山下副部会長、植田委員、田中（泰）委員、西口委員

（区役所）

河村区長、野村総務課長、小川地域活動支援課長、秋山地域活動支援課長代理、
前田地域活動支援課担当係長

4 議題

1. 平成29年度鶴見区の取組みの方向性について

5 議事

開会 19時00分

○前田地域活動支援課担当係長 それではただいまから、鶴見区区政会議平成28年度第2回防犯・防災部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課担当係長の前田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、河村区長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

○河村区長 皆さん、こんばんは。遅い時間、またお忙しいところ集まりいただきまして、ありがとうございます。

今回は、平成28年度にやってきたことも振り返りながら、平成29年度の鶴見区

の進んでいく方向と言いますか、そういったものを、皆さんのご意見をちょうだいして考えていきたいと思っています。

今日いただいた意見を、今後つくっていきます平成29年度の運営方針でありますとか、また予算にもできるだけ反映していきたいというふうに思います。

また、こういうことをすればもっといいんじゃないかとか、この辺こう変えたらどうだというような意見も、たくさんいただければというふうに思います。

では、最後までよろしくお願いいたします。

○前田地域活動支援課担当係長 それでは、これより議事進行を宗宮部会長にお願いいたします。部会長、よろしくお願いいたします。

○宗宮部会長 部会長の宗宮です。本日は、夜間お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今年度2回目の部会になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題1 平成29年度鶴見区の実施の方針について、事務局から説明をお願いします。

○前田地域活動支援課担当係長 それではまず、平成29年度の運営方針の策定に向けまして、まず平成28年度の実施及び実施状況をご説明いたします。その後に、平成29年度の実施に対するご意見やアイデアをお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、平成28年度の第1回区民アンケート（自由意見）を配付いたしております。これにつきましても、委員の皆様からのご意見などをお伺いするにあたりまして、ご参考といたしまして、無作為抽出された区民の方からどのようなご意見やアイデアが出されているかということをご紹介しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1に沿いまして、平成28年度鶴見区の実施の方針ということでご説明させていただきたいと思いますので、ご覧いただけますでしょうか。

1つめくっていただきまして、経営課題4 安全なまちづくりということをお願い

いたします。

戦略の４－１でございます。街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくりということで、具体的な取組みといたしまして、地域・関係機関と連携した防犯対策事業、それと地域・関係機関と連携した交通安全対策事業ということです。

めざす状態。おおむね３から５年間で念頭に設定いたしておりますが、安全で住みやすいまちと感じている区民を増やすということでございます。

戦略。中期的な取組みの方向性といたしまして、まず、鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向けまして、区民、地域、関係機関、事業所などが連携・協働し、区民のより一層の防犯意識の向上につながるよう、区を挙げての啓発活動を推進する。

２点目としまして、街頭犯罪の約６割を占める自転車盗について重点的に取り組む。

３点目といたしまして、放置自転車も含めた自転車利用者のマナー向上をはじめ、広く交通ルールが守られるよう、区内関係機関と連携し、交通安全の普及・啓発活動に取り組むということで考えております。

それではまず、地域・関係機関と連携した防犯対策事業ということで、中身を説明させていただきますと思います。

防犯カメラの設置につきましては、今年度３０台を予定しております。

防犯推進委員会を中心にいたしまして、各地域団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動につきましては、１２回ということで予定しております。

これにつきましては、平成２８年８月末現在、街頭犯罪の７手口につきましては、前年よりは減っているということを挙げまして、今後もどんどん犯罪を減らしていくという目的で行ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは引き続きまして、地域・関係機関と連携した防犯対策事業ということでございますが、区役所・警察署・各地域防犯組織、青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員会さんなどによる合同連絡会の実施を年に１回ということで、情報の共有を密にして、犯罪の減少に努めてまいりたいと思います。

自転車の二重ロックを推進するために、毎月２６日を「ツーロックの日」として啓発に取り組むとともに、鍵の取付けキャンペーンを実施いたします。これにつきましては１２回を予定しております。街頭犯罪７手口の１つであります自転車盗が５７．９％と、割合が依然と高い数値を示しておりますので、今後も二重ロックの推進を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

中学生防犯標語コンクールの実施１回ということで、これにつきましては今年の夏休みを利用しまして、区内在住の中学生を対象に標語コンクールを行いまして、応募総数が８７５件でございました。９月２１日に審査会を行いまして、「こんにちは。その一声でも抑止力」が第１位の最優秀作品に選ばれました。ちなみに茨田中学の１年生でございます。優秀賞の作品も６作品ございまして、これらの作品を活用し、地下鉄の階段のステップ部分のマグネットやのぼり旗を作製しまして、啓発に努めてまいりたいと思います。また、区民まつりや防犯ブースに置くぬりえのうちわに刷り込んで、区民の皆様への防犯意識の高揚に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次の、子育て層への交通安全教室の実施でございますが、各地域で１２回行ってまいりたいと思います。子育てサロンに「つるりっぷ」も参加することで、親子で楽しく学んでいただけるということで、交通事故に対しての注意を行っていただくことができるのではないかと考えております。既に１地域で９月に完了いたしまして、今後、各地域で行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次です。高齢者への交通安全研修会の実施ということで、今度１０月１２日の１０時３０分から区民センターの小ホールで行うことになっております。

特に、高齢の方につきましては、運動能力が若いときに比べまして落ちているんですけれども、自分ではなかなか意識をされていない方も多いということで、注意しなければならないところを気づいてもらえるよい機会となっておるかと思っております。

例えば、横断歩道の点滅直前の駆け込み横断とか、なかなか身体能力が自分ではま

だまだいけてると思っておられる方が多いので、例えば赤信号の見落としもそうなんですけれども、こういう場を通して研修を行ってまいりまして、交通安全に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

園児への交通安全教室の実施ということで、これにつきましては、区内の幼稚園、保育所の園児さんに対しまして、ここの写真にもございますように、つるりっぷも参加しながら、わかりやすく楽しくこの安全教室を行うことによりまして、小さいときから交通安全に気をつけるという意識を植えつけるということが大事なと思い、行なってまいりますので、よろしくお願いいたします。

警察署、区内の学生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施ですが、これにつきましては春と秋の交通安全運動に合わせて4回実施いたします。一般的には自転車の無謀運転、例えばスマホを見ながらの運転だとか、並列、2人以上並んで自転車を運転したり、自転車の2人乗りというのが多い世代でございます。同じ世代の方がマナーアップキャンペーンに参加していただくということで、ほかの高校生、学生さんのマナーアップにつながっていると思われるので、これにつきましても力を入れてやっていく所存でございます。よろしくお願いいたします。

スケアードストレート学習。スタントマンを活用した交通安全教室の実施ということで、2回実施いたします。

まず、その下にご覧いただけますように、10月5日の水曜日でございますが、汎愛高校で行います。2回目は10月23日の日曜日に、花博記念公園鶴見緑地のハナミズキホールの附属展示場で行います震災訓練 安全・安心フェスタにおいて実施しますので、よろしくお願いいたします。これにつきましてもすごく好評のご意見がございますように、実際に目の前で事故を再現いたしますので、いつ自分が被害者になるか、また加害者となるかという、そういうふうなことになるように体験を活かしてもらうような学習を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

小学生交通安全絵画コンクールの実施ということで、区内在住の小学生を対象に、

夏休みの宿題といたしまして募集を行いました。募集を行ったところが応募総数20件と、やや低調だったんですけれども、これにつきましても先日の9月21日に審査会を行いました、各賞の発表を今後行ってまいりたいと思います。

ちなみに、みどり小学校の4年生が最優秀賞を取られております。これにつきましても活用としまして、現在、放置自転車の防止キャンペーンということで、ティッシュペーパーを放出駅前と横堤駅前と今福鶴見の駅前で月に1回ずつ行っておるんですが、そちらに差し込んで、放置自転車をなくす運動に活用してまいりたいと思います。

次、転入者への駐輪場マップの配布でございますが、これにつきましては現在、民間も含めた駐輪場マップをつくるということで、情報の提供をホームページとかで依頼をかけておるところです。現在、事業者の方から1件の情報の提供がございますので、今後この情報も含め駐輪場マップをつくりまして、転入者の方へ配ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、戦略4-2といたしまして、災害に強いまちづくりでございます。

具体的な取組みといたしましては、区民の安全・安心を担う総合的な防災力の強化ということでございます。

めざす状態は、おおむね3から5年間で念頭に設定いたしておりますが、地震・風水害等の災害に対する、区全体の危機管理対応能力が向上していると感じている区民の割合を増やすということでございます。

戦略といたしまして、中期的な取組みの方向性でございますが、まず区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携した訓練などを通じて、区全体の危機管理対応能力を向上させる。

2点目、地域の自主防災力の強化と、そのための支援を行う。

3点目、地域コミュニティの活性化を図り、自主防災組織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が活発に行われるための仕組みづくり、支援を行うということでございます。

それでは、めくっていただけますでしょうか。

まず、1点目ですが、避難所開設運営訓練・防災講演会等の開催ということで、各地域で行いまして、全12地域で行う予定としております。これにつきましても、もう皆様ご承知のとおり、いざというときにどこへ避難すればよいかだとか、何をすべきかということを知ってもらうよい機会となっております。今年につきましては、講演会を行うという地域がございます。防災についての知識を深めることにより、来年以降のより中身の濃い充実した訓練を行っていただけるようにということで、地域で考えられて講演会を行われます。

2点目の鶴見区震災訓練、安全・安心フェスタの実施ということで、先ほどもちょっとふれましたが、今度10月23日、日曜日でございますが、鶴見緑地のハナミズキホールで開催いたします。これにつきましては実際に体験していただけるようなブースを展開させていただきます。いざというときに備えるためのよい機会となりますので、皆様の参加をよろしくお願いいたします。

次の、つるみんピックの開催ということですが、1回を予定しております。これにつきましては現在、内容につきまして消防と協議をいたしておりますが、競技性の高い内容にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

小・中学生を対象とした防災学習会の開催を各地域の小学校などで行ってまいりたいと思います。この学習を行うことによりまして、ふだんから防災意識を習得していただきまして、いざというときに自分がどんな行動をとらなければならないのか、また、中学生につきましては、自分は何ができるかなどを考えてもらうよい機会になるので、どんどん進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上で、平成28年度の主な取組みの説明を終わらせていただきたいと思います。

部会長、よろしくお願いいたします。

○宗宮部会長 一旦ここで切りますか。

○前田地域活動支援課担当係長

引き続きまして、すみません、それでは資料２をご覧くださいませでしょうか。平成２９年度の鶴見区の主な取組みの方向性といたしまして、説明してまいりたいと思いますので、１枚めくっていただけますでしょうか。

それではまず、現状です。先ほどもご説明差し上げましたとおり、街頭犯罪の約６割を自転車盗が占めております。

また、交通事故の現況といたしましては、全事故死者数に占めている自転車に関わる死傷者の数が約３割を占めております。

放置自転車も含めた自転車利用者のマナーの悪化が問題視されております。

それを踏まえて、課題ですが、街頭犯罪発生件数のさらなる減少を図る必要があります。

特に、街頭犯罪の約６割を占めております自転車盗につきましての取組みを重点的に推進する必要があるということでございます。

また、自転車のマナーアップにつきましての取組みを推進する必要があると考えております。

平成２９年度の取組みの方向性でございますが、鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向けまして、区民、地域、関係機関、事業所などが連携・協働いたしまして、区民のより一層の防犯意識の向上につながるよう、区を挙げての啓発活動を推進してまいりたいと思います。

街頭犯罪の約６割を占める自転車盗につきまして、重点的に取り組むということでございます。

また、放置自転車も含めまして、自転車利用者のマナー向上をはじめ、広く交通ルールが守られるよう、区内関係機関などと連携いたしまして、交通安全の普及・啓発活動に取り組んでまいります。

具体的には、平成２９年度考えられる取組みといたしまして、まず、地域・関係機

関と連携した防犯対策事業につきましては、防犯推進委員さんを中心といたしまして、各地域の団体・関係機関が連携した区内一斉防犯活動につきましては、今後、やり方も検討はしていくんですけれども、12地域で継続してやってまいりたいと思います。

区役所・警察署・各地域防犯組織、青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員さんによります合同連絡会の実施につきましても、引き続き行ってまいりたいと思います。

自転車の二重ロックを推進するための鍵の取付けキャンペーンの実施ということで、これにつきましても引き続き12回実施してまいりたいと思います。

防犯カメラにつきましても、有用性が認められておりますので、引き続き来年度も30台の設置をしてまいりたいと思います。

また、防犯カメラが作動しているということを広く、歩いている皆様に知らせる意味で、防犯カメラの表示物というものを掲示してまいりたいと思います。

次ですが、地域・関係機関と連携した交通安全対策事業といたしまして、これにつきましても今年度から引き続きまして、子育て層への交通安全教室の実施ということで、各地域で12回実施してまいりたいと思います。

また、高齢者への交通安全研修会につきましても1回を実施させていただきたいと思います。

園児の皆様への交通安全教室の実施ということで、これにつきましても4回の実施を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

警察署、区内の学生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施ということで、これにつきましても4回行ってまいりたいと思います。

スケアードストレート方式による交通安全学習につきましても、2回の実施をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次めくっていただきまして、防災につきましてですが、まず現状です。地域における自主防災の取組みについて、地域格差が生じている。

2 点目といたしまして、区役所は災害時に災害対策本部として中核を担うこととなりますが、装備品等、十分な体制がとれていないという現状でございます。

課題といたしまして、区全体の防災力の強化を図るためには、自主防災活動における地域格差の解消が不可欠でございます。訓練の実施につきまして積極的に働きかけるとともに、災害時の中核を担う区災害対策本部と地域防災組織などとの連携・強化を図る必要がございます。

区災害対策本部の機能強化と質的な向上ということでも課題を持っております。

平成 29 年度の取組みの方向性といたしましては、区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携した訓練などを通じて、区全体の危機管理対応能力の向上をさせたいということでございます。

地域の自主防災力の強化とそのための支援を行ってまいります。

自主防災組織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が活発に行われるための仕組みづくりや支援を行ってまいりたいと思います。

区災害対策本部の充実に向けた研修及び装備品の購入をしていきたいと思いで、よろしくお願いいたします。

平成 29 年度に考えられる取組みといたしましては、これにつきましても今年度の内容を踏まえまして、引き続き、地域の自主防災力の強化のために、住民、関係機関、三師会（医師会と歯科医師会、薬剤師会）などと連携しました訓練等を行ってまいりたいと思います。

避難所開設運営訓練の実施を 12 地域で行ってまいりたいと思います。

鶴見区震災訓練 安全・安心フェスタということで、これにつきましても実施を行ってまいります。

つるみんピックにつきましましては、今年度と同じく、平成 29 年度も安全・安心フェスタと切り分けた形で開催を行ってまいりたいと考えております。

区職員への実働的な訓練の実施を行ってまいりたいと思います。

以上、平成２９年度の主な取組みの方向性ということでございます。よろしくお願いいたします。

○宗宮部会長 ありがとうございます。平成２８年度の主な取組みと平成２９年の主な取組みの方向性について、ご質問とかご意見があればお出しいただきたいんですけども、いかがですか。

どうぞ、植田委員。

○植田委員 中学生の防犯のポスターは８７５件ということなんですけど、中学生は区に何名いらっしゃって８７５件なのかなというのが知りたいのと、ちょっとすみません、次々行きますよ。

高齢者の信号の駆け込みとか、色の見落としというようなこともあるんですけども、高齢になられると、ちょっとした段差でもこけたりされるんです。なので、駆け込みだけじゃなくて、ちょっとした段差とかということも気をつけていただきたいところだなと。そういうところで、そのままぱたんと倒れて車が来たところでひかれてしまうということもあるので、ビジュアルで見たことだけでなく、見えない、隠れたところの危険というところに、もうちょっと視点を置いていただきたいなということもあるのと、あと交通安全教室の園児のところ、園児に教えていくというところも大事なんですけども、よく道で、お子さんがいらっしゃるお母さんが偉そうに、あんた何でそんなとこ歩いてんのよ、そやから車ひかれんねよって言って、こう子どもが言われてるのを見ると、僕すごく心が痛くて、ここは園児だけでなく、お母ちゃんももうちょっと優しく子どもに教えるものじゃないのというようなことが植えつけられたらなというふうに思います。

あと、小学生の夏休みの絵画の宿題の分は、どこに発表されるのかなというのがちょっと。ティッシュの裏なのか、どこかあるのかということと、これも中学校と一緒に、小学校が１年生から６年生いる区の人口に対して何分の２０件なのかということが知りたいです。

すみません、あと2つだけなんですけど、自転車盗は前年度からもずっと言ってる分だと思うんですけども、約6割というのは、府の割合なのか、市の割合なのか、区の割合なのか、何の割合をもって6割というふうに言ってるのか。自転車を盗るところは、どこかの地点からどこかへ行くために盗るんだと思うんです。不便だから。じゃあどこで盗られて、どこで放棄されてるのかという区間をちょっと調べたら、何で盗られるのかなという糸口が見えてくるんじゃないのかなというのがちょっとあります。

あと、災害対策本部の中核を担うということですが、何をするのかなという。

あと、自主防災力の強化、何を持ってよしとして、どこを強化して、何か目標か何かがあって強化するのであればいいんですけど、ただ言葉だけで強化と言われても、何が強化なのか。組織をつくったことが強化なのか、何なのかというところがちょっと教えていただきたいなということ。

以上です。

○宗宮部会長 多岐にわたって、議論のテーマにふさわしいような内容もあるんですけども、数字とか考え方のところで、区の見解ということも求められていると思いますので、まず答えられる範囲でちょっとお願いできますか。中学生の数なんてすぐわかりますか。

○秋山地域活動支援課長代理 出してたんですけど、今、手元に持ってきてないんです。

○野村総務課長 今、手元に平成26年度の数字がありますけども、中学生につきましては、平成26年度で3,238人です。1学年1,000人ちょっとぐらいの数があります。

○宗宮部会長 小学生はその倍ぐらいということ。

○秋山地域活動支援課長代理 小学生、多分7,000人ぐらいですかね。合わせて。

○河村区長 単純に掛けたらですよ。

○野村総務課長 小学生は6, 813人。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね、合わせて1万人の記憶があるんですけども。

○野村総務課長 大体、学年1, 000人ちょっとぐらいの数です。

○河村区長 絵画が20で標語が。

○前田地域活動支援課担当係長 875です。

○河村区長 875。それで割合を出していただけたらと。

○秋山地域活動支援課長代理 一応、小学校、中学校ともに校長会を通じまして、全生徒にチラシをまいていただくという形はとらせていただいたんですけども、特に小学校のほうでは、もともと夏休みの絵画の宿題というのが、以前から定着してるものが人権なり、例えば選挙のポスターなりあるということで、チラシを工夫してまいたつもりなんですけども、割り込めなかったなというのが反省点ですね。思いのほか出していただけなかったというのは、ちょっと私どものほうでも本当にやり方と言うか、反省しているところです。

○山下副部長 結局、何のためにポスターを募集するかということと、描くことによって交通マナーをアップさせるというマインドを身につけるといふところの遡及がちゃんとできているかどうかだけだと思うんですよ、数字が云々というよりね。だから、そのテーマを持って校長会に説明している。これを描くことによって交通マナーのアップを生徒に動機づけさせたいんですよということをちゃんと説明しているなら、それはそれで僕は十分だと思うんですけどね。

○秋山地域活動支援課長代理 それは申し添えまして、チラシにもそういうのがあるから一緒に考えようねというような形でしたんですけど、なかなか。

○山下副部長 そうということですよ。だから本来の目的がちゃんと明確になっていけば、数字も大事なのか大事じゃないかわかんないけども、それなりにマインド

を広めると言うか、効果はあるのかなと思うんで、それはもう引き続きやっていただけたらいいかなと思うんですけれども。

○宗宮部会長 榎本小学校の子どもたちが描いたポスターを歩道に貼ったり、ティッシュの裏に入れて配るという啓発活動をやっているんですけど、もう大分たちますんでね、もうぼちぼち変えなあかん時期に来ていると思うんですけど、子どもの絵に対して、子どもたちが物すごい反応するというのがあるんですよ。最初の今、現にあるものは、榎本小学校の校長さんも大分頑張りはってんだけど、応募件数がかなり少なかった。どういう形で物になってくるのかということの説明がやっぱりできてないと言うか、ポスターを募集しますというふうなところで、それまでなかったですからね。

これ、こんなふうに使われるのであれば、また出したいというような声は当然出てきていますし、何種類かあって、全種類くれというようなことを子どもや親がいまだに言ってくるというのがあって、子どもの絵に対するそういう効果というのは物すごく高い。そやから、うまく運用すれば、持続してやっていけるもんやというふうには思いますんでね。

ただ、今、植田委員が言われてるように、数はちょっと寂しいなというのはありますけど、こんなふうに活用しますよというね、それもあわせて植田委員、質問されていましたが、こんなふうに活用しますよということをもう少しアピールしたら、続けることで、榎本のあのティッシュね、もう長いことまき続けたから、あれもうちょっと更新していくというふうにすれば、こういったことの今、山下副部会長が言われたようなことの効果は、上がってくるのと違うかなという感じはしますね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。活用する方法につきましても、今ご質問あったと思うんですけれども、各地下鉄なり放出駅なりで地域の方と協働で行っております放置自転車のキャンペーンで、ティッシュを一緒にお配りしてるんですけれども、そこに絵を刷り込みさせていただいて、子どもたちがこういうことも考えてるよ

というのがわかるような形で、行きかう人に配っていただくというのと、あと駐輪場、区内に何カ所かありますけれども、そういうところとかに絵をきれいにコーティングをして貼らせていただいたりですとか、あと事業所等でご協力いただけるところがあれば、そういうところにも貼っていただいたりというような形で、交通安全の絵画については活用させていただこうと思っています。

○河村区長 そういう意味では、もっとこんなふうに使ったらええでとかというのがあれば、また後ででも教えていただけたらありがたいですね。

○秋山地域活動支援課長代理 あとは、高齢者の方の交通安全の関係で、マナーと言うか、技術的なところだけじゃなくて、道路そのものの安全もということでおっしゃっていただいていたので、またこの点につきましては、道路管轄の建設局とも一緒になりまして、危険なところがありましたら、点検やそういうところに対応など進めていきたいと思います。

あと、園児、子どもだけじゃなくていうところではいきますと、各地域の子育てサロンに安全対策職員が入らせていただいているのも、まさにそのところの1つでもありまして、やっぱりお母さん、保護者の方が一緒に取り組んでいただかないと、子どもってやっぱり親を見てるよねというのは、前からもいろいろとご意見もいただいていますので、子育てサロンに入らせてもらっているというのは、そういうところが1点あります。

あと、小学生の保護者さんにはどんなふうアプローチしていったらいいのかなというのは考えどころなんですけれども、実際には警察が、全部の小学校に何回も交通指導ということで入っているというのは聞いておりますので、そこに区として一緒に何かできればというのと、あと地域のほうで、実際に茨田南さんですとか何カ所か、土曜授業という形で地域の方も一緒になって、保護者の方も入っていただけるような時間帯に交通安全教室を開催していただいているところもありますので、またそういうところとも一緒になって、保護者の方、大人の方に対しての啓発もあわせて進めてい

きたいと思います。

○宗宮部会長　自転車盗の6割がどういう数字か。

○秋山地域活動支援課長代理　6割で使わせてもらってますのは、鶴見区の街頭犯罪件数の中の6割です。

ただ、大阪市全体で見ましても、結局比率はどこの区もなんですけども、やっぱり一番高いのは自転車盗という形にはなってます。街頭犯罪そのもの自体は、年々、鶴見区のほうも下がったり上がったりというのはちょっと見る月によって変わってくるんですけども、やっぱり自転車盗というのは減らない。

以前の区政会議でも実際、あったご意見なんですけども、何で自転車盗が起きるのか、盗った自転車を使って別の犯罪に利用したりとか、そもそも犯罪の、大もとではないですけど発端になっているようなことも考えられないかということではご意見いただいてまして、ただ、警察もそこまでは実際出してないというところで、なかなか立証と言うか、数字上あらわすことは難しいんですけども、ただ、やっぱりいろんな何かの事件の折りとかに、例えば盗難車とか、そういうことも聞いたりするので、やっぱり悪用しているケースは多々あるのかなと思ってます。だからそういう意味で言うと、やっぱり自転車盗については、区民の方に気をつけてくださいという啓発とか周知というのは続けていかないといけないと思っております。

あと、災害対策本部が何の中核かということですけども、万が一の大きな災害が起きたときには、区役所が区災害対策本部ということで実際に立ち上がりまして、区長を本部長といたしまして、いろいろな関係機関、また地域が避難所を開設をされたりしたときに、大阪市との間に立ちまして、例えば支援物資がどうであるとか、被害状況はどうであるかというような、その状況把握をしながら、次にどういうことをしていったらいいかというようなことで、一緒に取り組んでいかないといけない場所になるかと思ってます。本当に大きな災害になりましたら、それこそ大阪府や国とも連携しながらやっていかないといけないようなこともあるかと思いま

すので、そこで言うと、区の一番のいわゆる指示出しをする場所であると思っております。

○小川地域活動支援課長 自衛隊の要請とか、そんなのも出てくると思います。

○秋山地域活動支援課長代理 あと、自主防災力の強化をどういうふうに考えているかというところで言うと、これもまた非常に難しいなと思っているんですけども、毎年、各地域の震災訓練ですとか、あと地域防災リーダーさんが中心となって、いろんな取組みをしていただいている中で、実際に何をもって図るかと言われますと、アンケート調査とかになってきたりはするのかなと思うんですけども、例えば地域の震災訓練を計画していただく中でも、いろいろと各地域によりまして取組みを考えていただけてます。これまででしたら、例えば何月何日に小学校で集まって、順番に水消火器とか毛布担架つくってみましょう、というところが多かったんですが、例えば榎本地域では、高校ですとか中学生の方も入れながらのもっと大きい規模での訓練の想定をされたりですとか、横堤で言いますと、各町会単位で、小学校に集まるまでに各町会がまちなかで自分達ができる訓練をしてから来るかとか、茨田西地域では、いわゆるまちなか訓練ということで、場所場所で自分たちの地域の特性をいかした訓練というのを考えていただいたりもするようになってきてるところが出てきております。そういう自主的に各地域で、いろんな訓練も含めまして発想が出てくること自体も、いわゆる自主防災力が上がってきてるところではないかなと思っております。

○宗宮部会長 自主防災を何をもってというのは、まさにこの議論、この場で議論、さらに深めていくという内容かなというふうに思いますけれども、植田委員、今お出しいただいた質問については、以上の内容でよろしいですか。

○植田委員 はい。

○宗宮部会長 はい。それではちょっと具体的に、順番に自転車のテーマからご意見をお伺いしたいと思っておりますけれども、今、植田委員のご質問の中で、高齢者と園児、乳幼児ということで、啓発の取組みをされてるということでご質問もあったん

ですけども、そのあたりで何かご意見があるのであれば出していただきたいと思いますし、気がつくのは、現役世代へのアプローチがないということなんですね。

○秋山地域活動支援課長代理 なかなかできてないです。

○宗宮部会長 これはもう非常に悩ましい話なんですけどね。

植田委員、どうですか。

○植田委員 そうですね、現役の方は。

○宗宮部会長 依然 6 割で、犯罪の入り口になってるとか、あるいは若い子が気軽にというふうなところで、そういった犯罪に、言ったら手を染める入り口にもなるかと違うかというふうなことは前から議論が出てて、やっぱり街頭犯罪全体を圧縮していくためには、自転車盗にポイントを当てた取組みが必要であるということについては、皆さん一致するところやというふうに思うんですが、自転車盗自体が横ばいというようなお話もありましたけども、放置自転車については取組みの成果がかなり上がっておる。

また、全体にどういった要因になっているのかという社会学的な分析はよくわかりませんが、かなり撤去台数自体が、榎本、放出は我々の成果だと言ってるけど、我々の成果だけであれだけ減るわけではないというふうには思うんですよ。

非常に大きな成果を全体としては上げてきているということから、単に撤去をしたらええとか、マナーアップなんだというふうなことだけでは、やっぱり次、何していくのかと。転換をやっぱり考えていけへんかったら。平成 28 年度までポイントとして押さえなあかんところ押さえてると。これから先どうしていくねんということについて、やっぱり平成 29 年度の中で、平成 28 年と同じ内容ということについては、ちょっと何か考えていくということが必要な時期に来ているのかな。正直言って、撤去してくれというふうに我々強く要望していますし、もう大阪市がそれに応じて、放出駅前なんか相当回数取りにきてくれているんです。

ただ、やっぱりね、1 回来るのに自転車 5 台とか、もう 10 台に満たないという状

態で走っているという状況は、非常に大きな成果を上げているんだという一方、ああいう税金の使い方でええのかと、最近は逆にちょっと思い出しているというのが正直ありましてね、放置自転車対策、マナーアップの啓発は続けていくつもりをしているんですが、次の手は何なんかにいうことをぼちぼち考える時期に来ているのかなというふうな感じもちょっとしますけれども、そのあたりはいかが。

どうぞ、西口委員。

○西口委員　もともと皆さんの意識がね、自転車は、高価なものであろうが、いろんなランクがあるんですけども、実際、自転車そのものを軽く考えて、結局これ何ぼか出したらまたさらが入んねんとかね。そういう保険制度がありますよね。

そういうことじゃなくて、例えば3万円の自転車を買ったら、免責としてもう2万円払わなければいけないとかね、例えば車の保険で言えば、事故を起こしたら、事故の軽い、重い、それは車両だけで済む問題かとか、いろいろ等級があって、20等級の方がその保険を使えば18等級になるとか、いろいろ免責の額って決まっていますよね。自転車も車両の一部なんだから、根本的に言えば、そういうこともやっぱり必要なんじゃないかな。買う段階で、例えばこの自転車3万円で買いました。次の同じような自転車を買うんやったらもう3万円の免責要りますよとか、そういう形のものをやっぱり設けないと、なかなか。いや、次買うで、安うで入んねや、別にかめへんねん、持っていてもかめへんねん、っていう意識がやっぱり強いんじゃないかなと私は思うんですけどね。

だから根本の問題ですわな。買う側の問題がものすごくあると思うんですよ。

○宗宮部会長　区で解決できないような。

○西口委員　区で解決できないと思うんですけども。

○宗宮部会長　ただね、大事な議論やと思います。やっぱりそういうことを押さえておかなかつたら、かつて高価な自転車というのが今、もうめちゃくちゃ安くなっていますからね。

○西口委員　ただ、区では解決できなくても、例えば保険屋そのものに、自転車協会に対しても働きかけるとか、そういう間接的なことはできると思うんですよ。区が抜本的に解決できない、それはわかっていますよ。だからそういう間接的なことで働きかけてくれないかと。おまけに、先ほど税金の無駄遣いどうのこうのと言われましたけども、いずれ自分の身がだんだん締まってくるわけですよ。やっぱり高い税金になってしまったとか。そういうことはやっぱり未然に防ぎたい。

ごく一部の方のために、まともにやっている方が実際、犠牲を払ってしまわれている。それが残念だなということも当然ありでね。ただ、区役所がそんな保険まで関与せえとかそうじゃなくて、指導をしていただきたいなということです。それに関してはどうなるかわからないですが、これ1つの意見。もう根本的にそういうこともやっぱり可能なんじゃないかな、またしていただきたいなということで。

○山下副部長　地域で放置自転車を撤去してどこかにストックして、そこに人をつけて、返してほしい人から返還料を取るというのは。

○西口委員　いや、実際でもそれはありますよ。

○山下副部長　そういうのもNPOでやるみたいな仕組みづくりってあったらいいかもしれないですね。

○西口委員　実際、自転車撤去されました。取りに行きました。3,000円払ってください。それはもうやっていますので。

○山下副部長　多分あその下に行っても何ぼか。

○宗宮部長　安田。

○山下副部長　安田行っても何ぼか取られますよね。

○西口委員　私もそれ1回経験ある。必死で取りに行きました。

○山下副部長　それが例えば放出の駅前なら、放出の駅前か、わきのスペースか何か、その場で解決させて、なおかつ市から委託受けて、撤去することの許可と返すときの回収。

○宗宮部会長 放出駅前10年やってますから、そんな意見、当然出てて、リヤカーに積んで阪東大橋の下、今、有料になってるんですけど、無料やったですから、あそこに運ばさせてくれと。リヤカーに積んで運ぶぐらいのこと地域でやるんやから、そのことに何の文句があんねんというやりとりは、過去何回かしてるんですけどね。

○山下副部会長 いやいや、だからそれはそういう事業を立ち上げ、許認可とか、いいよ、悪いよっていう話になってくると思うんですけど、実際、NPOいろいろやってますよね。自転車直して、修理できる。

○宗宮部会長 レンタサイクルに回すとか。

○山下副部会長 レンタサイクルに回すとか、そういうのはちょっとこねれたら、さっき言ったトラックを走らせる経費も売り上げやけど、その経費がそっちのNPOのほうの委託料に回ってしまうとか、そういうふうな仕組みってひょっとしたらできるのかもしれないですね。それこそ地域で解決する、鶴見区の放置自転車は鶴見区で解決するみたいなことをしてしまうと、それはいろいろちょっと先、長い話やし、いろんな許認可とかの話になってくるかもしれないですけど。

○宗宮部会長 3駅の対策として、啓発もやりながら、台数減らしてきてるという経過の中で、新しい考え方と言うか転換の時期に来てるということで、撤去にかかる地域の関わりの可能性というふうなこと、あるいは買いかえで中古自転車やったら5,000円も出したらあるという時代の中で、気軽に乗り捨てるとか、あるいは盗っても犯罪としての意識がなかなか芽生えないというふうなことに對して、どういう手を打っていくのか。自転車を使用することに対する何かチケットを持たせる、バウチャーみたいな形で持たせるというふうなこともあるかもわかりませんね。それは提言としてあると思うんです。

それともう1つ思ってるのは、サイクルロードが区内に1カ所もないという話、前にもちょっと出てたと思うんですけど、自転車を、言うたらちょっと悪者にして、啓発の対象やとか、自転車を追い込んでいくとか、マナーをよくしなさいということや

なくて、逆に自転車のまちづくりということで、言うたらね、バスがなくなっていくんやったら自転車が走りやすいようなサイクルロードを、緑地を中心に四方八方につくって、自転車がまちづくりのもっと中心に鶴見区がしますよとか、あるいは、ちょっと本を読んだら、買い物客の客単価は、車と自転車とえらく変わらないらしいんですね。だから商店街にしろ、自転車で買い物がしやすいまちづくりをしたらかね、何か現役世代へのアピールということで言えば、自転車を使うと何がしかの利得とか、自転車を使うことが何かいいことやねんというようなアピールも、マナーで、したらあかんということやなしに、自転車で呼び込むというような考え方に発想を転換していくというのも、マナーアップキャンペーンがある程度、成果持ってきた今、考えていくような方向が必要なんだろうかなという感じしますけどね。

サイクルロードは、色を塗るだけでサイクルロードやと言うてところが結構ありますからね。

ただ、所管が区役所でないというようなことで、なかなか難しい課題やろとは思いますが、鶴見緑地と自転車と鶴見区内というような発想で言えば、絵の描きようはあるのではないかなという感じがしますがね。

○山下副部長 罰金取るのは難しいかもしれないけど、マナーのいい人に対して何かの報奨を出すというのはやりやすいですよ。マナーアップカードみたいなのを10枚ためたら何かくれるよ、つるりっぷバッグがもらえます、みたいな。

罰金よりは報奨のほうがやりやすいですよ。

○宗宮部長 確かに、あかんでという、説教するという方向で物言うんじゃないで、やっぱり褒めるということを誘導していく方向。

今の自転車の話ですけど、こんな高価な自転車だれが買うねんって思っていたんですけどね、子どもの保育園送り迎え用の自転車、結構走っていますよね。やっぱり大事なところには皆さんお金を使い回すわけで、大事なもんやねんというような意識を持ってもらうような、あかんやなくて、ええという方向を引き出していくということ

考えていく必要があるのかなというふうに。

○田中（泰）委員　自転車盗が多いということですけど、私、この歳まで生きてきて、自転車盗に遭ったことはないんですね。2ロックもしてません、1ロックです。自転車盗に遭う自転車というのは、一体どういうところに置いてはるとか、私は普通にスーパー行ったら駐輪場につけますし、普通つけていいところにつけてますよね。そうすると1回も盗難に遭ってません。こんなに多いというのは、皆さんどこにつけてはるんやろ。

○西口委員　盗る者の心理としては、フィーリングと思います。そこにあるから、便利やから乗ってしまうとか。何もそこまで見てないです。計画的に盗るのは別ですよ。

○山下副部長　多分、基本鍵かかってないということでしょう。だからぼんと押して動き出したら乗っていくという話やと思うから。

○田中（泰）委員　そしたら、区役所さんでデータ取って調べていただきたいとか言っても、そんなんはまちまちで無理ということですか。

○宗宮部長　前にちょっと出てて、市営住宅の駐輪場とか、そんなんからも結構被害が出てるというお話がありました。だからたまたまなんでしょうね。

○山下副部長　たまたまですね。疲れたときに、鍵のかかってない自転車が。

○西口委員　本当に自転車で商売しようと、おかしい言い方なんですけども、悪いことをする、その自転車を売るという人は、前もってねらってますよね。

○宗宮部長　高級なやつですか。

○西口委員　だから、自分の自転車が何で盗られるんやろというときには、絶対僕はフィーリングでしかないと思います。自分の家へ帰るための足として使うとか。だからよく町会で見ない自転車がほってあるのは、そういうことなんかなと思って。

○田中（泰）委員　乗り捨ててあるということ。

○山下副部長　でも、逆に言うと、犯罪を誘発させてしまっているわけやから、

罪つくりなわけですよ。

○西口委員 でも、中には鍵を壊すやつもおるしね。

○宗宮部会長 おりますね。

○山下副部会長 本当にいくやつはいつてまいよるやろうし。

○西口委員 だからその度合いはわからないんですが、鍵のかかってない物を瞬時
によう見つけられるもんやと私は思う。

○田中（泰）委員 たくさんの中でね。

○宗宮部会長 普通のロック1つのやつは、簡単に曲がって簡単に取れるんですよ。
ね。鍵なくして、ぱっと回して、職場へ行ってねじ回しで取ったらええわと思って走
り出したら、すぐ呼びとめられますね。

○山下副部会長 結局、最終的には啓発ですよ。

○田中（泰）委員 どんなところやから気つけなあかんという、そんなんもう全然
無理というか。時間帯もね。

○秋山地域活動支援課長代理 時間帯は、市民局が出してる分なんですけど、発生
時間で言うとお昼間がほとんど。

○宗宮部会長 酔っぱらいというわけではないんですね。

○秋山地域活動支援課長代理 夜中だから盗られてるというわけでもなさそうなん
です。これを見てると。

○西口委員 時間帯はいつからいつ。

○秋山地域活動支援課長代理 統計でいくと、昼間が夜間より3倍ぐらい、2～3
倍多い。

○西口委員 例えば10時から4時までとか。

○秋山地域活動支援課長代理 昼間は、7時から17時という間。

○宗宮部会長 丸々ですね。

○西口委員 えらい長いですね。幅がすごいですね、それ。

○宗宮部会長　　もういつでもという感じやね、それやったらね。

○田中（泰）委員　　明るい間にごちゃごちゃしてたら人に見られますよね。

○宗宮部会長　　僕らね、どうしても21時、22時ぐらいから、もう邪魔くさいから帰りにちょっと乗って、そこらへぼんとほっとくというふうなイメージで。

○山下副部会長　　遅い時間帯のイメージですよ。

○田中（泰）委員　　と思ってたんですけどね。そうでもないんですね。

○秋山地域活動支援課長代理　　結構、お昼間と言うか、夕方なのかもしれないですけど。

○山下副部会長　　いや、だから逆と違いますか。この時間帯は取られへんという慢心もあるのかもしれないですね。例えば、その昼間にコンビニに行って、ジュースを1本買ってくる間に、あれっていうのも。

○田中（泰）委員　　今までコンビニは鍵をかけませんでした。

○山下副部会長　　かけないでしょう。だからコンビニに行って、ジュース1本買うときに鍵かけない人、多分いっぱいおると思うんですけど、そのタイミングでフィーリングが合えば。

○田中（泰）委員　　狙われる。

○山下副部会長　　行ってしまうという。例えば、じゃあ啓発運動として、コンビニに入るときにも自転車の鍵をかけてねという啓発をするのかどうなのかなという話ですよ。そんな感じと違いますかね。

○田中（泰）委員　　私もコンビニの人から言われましたから、鍵をかけてくださいって。

○山下副部会長　　きっと多いんですよ、取られちゃったって。

○宗宮部会長　　苦情がね。

○田中（泰）委員　　電動自転車にかえてからは、鍵をしっかりかけています。

○山下副部会長　　さすがに。価値観の問題ですかね。

○宗宮部会長 28年度、29年度、今の報告を聞いていたら、この場だけではないと思いますが、この場で議論になっていることやアンケートの結果ということで、区民の声を相当取り入れてもらっていると思うんですよね。防犯カメラの台数を増やせとか、設置場所を工夫せいとか、スケアードストレートをもっと回数を増やしてオープンにせいとか。駐輪場マップも民間の分も入れろというようなことも、この話題になっていたと思いますけども、区が相当、我々の意見を取り入れた対応をしていただいていうのは、この28年、29年の内容を見たら、相当数話題になったことやなというのは見えるかなと思うんですけど。

ちょっと話に移りますけれども、防犯の日のときにマンネリ化というのが話題になっていて、マンネリ化という指摘があったときに、茨田南の西田会長がほぼ回答を言うてはるなと僕は思ったんですけど、やっぱり長年継続して、その自転車のやつも適当な時間に回るといふことしか実際にはできないわけですけど、そういう取組みを地域がやっているというのは、それなりの犯罪抑止ということでの効果は確実に持っているだろうと思うんです。ただ、同じコースを同じようなメンバーで漫然と回るといふことをしていたら、確かにやっているものは目に見えた成果、目の前で自転車に乗っていきよるわけやないから、なかなか確認しづらいというのがあって。継続をしてもらうということで工夫はいるやろうということで、なかなか区役所がそうしてくださいと言っていくのは難しいのかもわかりませんが、西田会長のところがやってはるように、コースを分けて、回った後、それぞれのコースがどうやってんということでもまとめの会をやってみたり、あるいは最近来ないかなっておっしゃっていた警察が最後までいて、警察の話を聞くなり、警察に言うなりということをするとか、そういう工夫がないと。漫然と毎月だらっと集まって、だらっといつの間にか解散しているという形で防犯の日をやっていると、全体としてマンネリ化という意見が出て来たときに、なかなか改革をするというタイミングを失って、防犯の日がもう継続できないということにもなりかねへんというのは、この話題になったときに思っています。

29年度、防犯の日は引き続きやるということで入っていますから、持ち方として区役所としてできる話と地域が自主的にやる話というのがあると思うので、必ずしも区役所からこうしてくれという話にはならないかも知れないけれども、最低、最初熱心やった警察にもう一遍、熱心にやってくれというような押さえをしていただくなり、何かそういうことは必要なのかなという感じはします。

自転車と防犯カメラの件については、こんな感じでよろしいですか。

○西口委員 防犯カメラなんですけどね、30台設置ということで目標台数ですか、決められると思うんですけど、表示物の掲示というのは1台に対して1枚しかないんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 ここにあがっている表示物ですか。

○西口委員 そうです、そうです。

○秋山地域活動支援課長代理 これはまた別で、表現をどうしようと思ってこのままになっているんですけど、もともとカメラをつけた場合は作動中という表示物をセットでつけているんです。今回、あげさせていただいている表示物の掲示というのは、カメラそのものではなくて、前回全体会のところでご意見をいただいているんですけど、カメラそのものばかりではなく防犯に対する取組みの1つとして、例えばダミーカメラとか表示物ですとか、もっと違う観点でコストも抑えつつ効果のあるような防犯対策というのは考えられないかなというところでご意見をいただいた分で考えてみたんですけども、ダミーカメラそのものはやっぱり一目見てわかるというのが、いろんな人からご意見を聞いているとあるんですね。そんなパッと見てわかるカメラをつけるのはどうなんかなというのは思いまして。

ここで書いている表示物というのは、例えば鶴見区というのは防犯カメラをいろんなところに設置していて、防犯に取り組んでいるまちですよというような表示物なんですけど、啓発の中身をまだ考えきれていないんですけど、その文言によって、表示物をいっぱいつけることによって、万が一悪いことをしそうな人が、鶴見はいろんなと

ころにそういう取組みをしているんや、どこで見られているかわからんというようなことで、抑止が図れるものにならへんかなと思っているんです。

○西口委員 表示物というのは1枚のプレートには限らないということですか。例えば、ここに防犯カメラがありますよとか。

例えばですよ、うちの町会で言いますと、防犯カメラを設置していただきました、その下に防犯カメラありというのは余りにも近過ぎて、防犯カメラを見ればわかるんです。実際は、不法投棄がもとだったんですよ、防犯カメラをつけたって。それと、通学路とかあって、駐車している車が多いと。それに対してカメラをつけたんですけど、目の前が企業さんの塀なんですね。こっちから防犯カメラが見ているんですが、表示プレートがたった1枚しかないがために、防犯カメラがあるということの抑止効果がないんじゃないかなと。だから、広いところにぽこんと1枚だけ張ったとしても、ほかに企業さんの塀に駐車禁止とかいっぱい張っているわけですよ。その間に隠れてしまっって見えないと。でも、うちのほうで、コーナンとかそういうところに買いに行ったら3カ所ほど張ったんですけど、それから不思議なことに1枚のときよりもなくなっちゃったんですよ、不法投棄が。自転車にしても何にしてもほってあったんですけどね。

だから、そういうプレートもすごい有効だったんで、もし安価であるならば、それを大量に仕入れていただいて、大量に配っていただければ、防犯カメラ1台について例えば3枚とか、用意していただいてもいいんじゃないかな、どうですかということなんですけどね。

○秋山地域活動支援課長代理 ちょっと文言をまだ考えていますけど、イメージとしてはカメラがついていなくても、例えば、地域としてどこかにカメラを取り付けているよみたいなので、通り沿いに何個もつけたりとか、そういうような感じでやってもらおうと。

○西口委員 そうです。だからつけられるような大きさというのはやっぱり横が10センチ、縦が30センチぐらいだと思うんですね。プレートは一般的にも売ってい

ますから、そういうのとかを、例えば1台につき5枚も10枚もいらないと思うんですよ、30台だったら1台につき3枚ぐらいは。それで足りなかったら、もう任意で、その町会さんなり、防犯カメラをつけてくれと言ったところはまた用意するとは思うんでね。

○秋山地域活動支援課長代理　一応カメラと切り分けて、希望を聞いて取りつけたいというところにつけていってもらおうかなと思っています。

○西口委員　あれは1枚だったから見えなかったのかなとか。余りにも結果が出過ぎたんで。

○小川地域活動支援課長　地域ごとに対応ですよ。マクロじゃなくて。

○宗宮部会長　それやったら、今西口さんが言ってはるように、1台につき3枚ぐらいは用意したらどうなの。1台あって前後に表示するというのは、車でもそうすやんか。

○秋山地域活動支援課長代理　来年度から。

○西口委員　車にだって盗難防止警報装置って、助手席にも運転席にもつけますからね、みんな。後ろにもつけますからね。

○山下副部会長　いっばいつけといたらいいんや。

○宗宮部会長　それは、ダミーカメラを買うよりは絶対にいいと思います。

○西口委員　予算の関係もあると思うんですが。

○秋山地域活動支援課長代理　あとは、カメラでいうと電柱、鶴見区の場合は関電とかNTTも頑張ってつけられるようにしているんですけど、そこに何枚もつけられへんかなというのはちょっと。そこは周囲という形ですよ。

○西口委員　電柱じゃなくてね、その目線なんです。例えば、そこに不法投棄がありました。それをほろうかなと思って、あ、こんなプレートがはってあるわとなったら、それでも抑止効果が働くので。

○秋山地域活動支援課長代理　そこはそういうことも可能な形で検討させてもらっ

て。

○西口委員 無断で電柱にペタペタ張るというわけにはいきませんから。

○秋山地域活動支援課長代理 張る場所の問題があるので、そこは地域のほうで確保をしていただいてということになるかなと。

○山下副部長 一遍、どこかで見たんですけど、何とか区は防犯カメラ設置強化中かな、それか、ここは設置強化地域です、区域ですとかいう、のぼりとか横断幕とか、バーンと張ってあったと思うんですけど、あれって実際に特区的とか、そういうのは今ないんですね。独自、区単位でやっているということですよ。

○河村区長 そうですね。東淀川かどこかでも何か見たことがありますね。

○山下副部長 何か、見たことあるよね。

○秋山地域活動支援課長代理 カメラの設置目的をどう考えるかなんですけど。

○山下副部長 だから、そのカメラごとに作動中という看板をつけるのも1つのアイデアだし、鶴見区は防犯カメラを設置強化していますというのぼりなりをつくって、目につくところにポンポンポンと。

○秋山地域活動支援課長代理 イメージはそんな感じです。のぼりとか。

○山下副部長 そういうイメージののぼりとか。防犯カメラじゃないところにそういうのはもうありますか。

○秋山地域活動支援課長代理 それは鶴見としてはやっていないんで。

○山下副部長 やってないんやね。そういうふうな、鶴見区は防犯カメラの設置を強化していますということを目に見えるように、のぼり、横断幕。

○河村区長 徳庵の商店街とかね、そこらじゅうについてますよね。

○山下副部長 つけ過ぎてもあきませんよね。

○宗宮部長 そらそうやね。

○山下副部長 うそやろうみたいな。

○宗宮部会長 景色になっちゃうよね。

○山下副部会長 大きくボーンと表示するのも1つのいい方法かもしれないですね。それこそ区役所でいいじゃないですか、何とか全国大会出場みたいな、あんなんつくって。あれみたいなものをダーンと4階から1階に垂らすとか。そんなに予算があるかどうか知らないですけど。

○田中（泰）委員 茨田北ではね、変質者が多いと思うんですけど、どうなんでしょう、よそと比べて。犯罪発生状況というのを各会館に送っていただいていますよね。よくあるんですよ、変質者がここそこで出ましたというのが。

○秋山地域活動支援課長代理 ここ最近、本当に多いなと思ってしまして。茨田北がということでもないんですけど。

○山下副部会長 1人のやつが大体同じ辺でやるから、そいつが出没したらその地域ですわ。最近では諸口とか浜がちょこちょこ出てきています。

○田中（泰）委員 多いんですよ、本当に子どもさんが狙われたら。

○山下副部会長 そいつが捕まったらなくなるんですよ。

○田中（泰）委員 1人なんだろうかね。人相とかばらばらですよ、年齢も、見ていたら。で、1回統計をとってって言っているんですけどもね。

○山下副部会長 多分、見た子の証言も本当に正しいかどうかはわからないから。子どもが見たらおっさんに見えるけど、おっちゃんが見たら若く見えたりね。そんなこともあるから。

○田中（泰）委員 それはありますね。それも送っていただいていますけど、それを拡大コピーして会館の前に貼っているだけで、うちではそれ以上進んでいなかったんです。また出たで、うん、捕まらへんと言って怒ってはるんでね。私ね、こういうことを広報で取り上げませんかと言ったんですわ、報告会の中で。だから、会館前に貼っても会館に来はらへん人はどこでおこっているかわからへんから、各町会長にも配って、掲示板に貼ってもらったらどうかというのも言っているんですけど、皆

さん、そんなのはされているんですね。

○宗宮部会長 うちは、フェイスブックにすぐ上げるというふうにしますけどね。

○田中（泰）委員 フェイスブックを見る人、少ないんです。

○山下副部会長 あとは、あんまちメールの普及ですよ。

○田中（泰）委員 それもね、皆さん見られないから。

○山下副部会長 あんまちメールは勝手に入ってきますから。これ、みんな、意識して家を出ようねっていう。ただし、絞って入れないとえらい目にあいましてよね。

○田中（泰）委員 子どもさんがかわいそうやから、何か手はないかと思うんですけど。捕まったという話を聞かないんですわ。だから、抑止力ということで考えますと、掲示板にこんなのがまた出ているからって貼りたおしてもらおうとか。で、広報で書いてやろうかなと。

○山下副部会長 昔、交番速報ってありましたよね。最近は余り見ないですよ。

○秋山地域活動支援課長代理 私はちょっとそれ、わかっていないです。

○宗宮部会長 回覧板に、最近そういたら交番速報っていうの見ないですね。

○山下副部会長 見ないですね、昔来とったけど。

○宗宮部会長 前、しょっちゅうね、回覧板。

○山下副部会長 しょっちゅうやってくれてたけど。

○宗宮部会長 警察から。

○秋山地域活動支援課長代理 今、もうあんまちメールにかえてるんですかね。

○山下副部会長 そうか、交番のこれもあんまちメールで。

○宗宮部会長 いや、交番からプリントは来ますけどね。あれ、そう言えば、タイトルが違っていたですね、確かね。

○山下副部会長 昔よく、交番速報でパパパッと張ってくれて。

○河村区長 そんなんしかなかったからね。

○山下副部会長 その辺に貼ってくれていましたよね。

○田中（泰）委員　　そういうのがあったら、そのほうでも書いてもらって、皆さんの目に触れる。うちの近所、ここが出るんやと思ったら、夕方でも出てもらったら、子どもさん助かりますしね。

○西口委員　　暗いところに多いんですか。晩に、暗いところというか暗いときに。

○田中（泰）委員　　そうでもない。

○河村区長　　逆に明るいところでやるかもしれません。

○山下副部長　　見えないと意味がないから。

○宗宮部長　　大体、その手ですよ、今暗いところに出ているのは。

○西口委員　　暗いところやったら、街灯を増やすとかそういうことの対策はできると思うんですけど。

○山下副部長　　明るいところの車と車の間とかね。

○田中（泰）委員　　そうですね、何かすき間に。うちの青パトを置いているところが出るそうなんです。ちょうど隠れるんですって、道が曲がっていて。

○西口委員　　その種類って、ごめんなさい。露出とかそういうことですか。

○宗宮部長　　露出が今、出ているの多いですね。

○西口委員　　暗かったら効果がない。それでしたら、やっぱり防犯カメラですね。変質者が多いということで、今出ている内容ですんで、そういった対策も必要かと思っています。そういう意味で言ったら、月1回の防犯の日もそれなりの効果、実際の地域が動いているという状況と、防犯カメラを要点、要点でつけているということで、対策としては有効なんだと思いますのでね。青パトとあわせて、引き続きそういった取組みを進めていくということで、29年の取組みについてもそういう形でお願いしたいと思います。

○山下副部長　　1ついいですか。高齢者の安全研修なんですけども、今、座学でやっていますよね、座って話を聞くというのをやっているんだよね。

○秋山地域活動支援課長代理　　今、座学。はい。

○山下副部長 それはもう限界があるのかなと思うんですよね。本来ですと、実際に自転車に乗って、自分がふらついているという認識をしっかりとってもらうとか、そういうことをしたらいいのかなと思うんですけど。でも、スケアードストレートがありますよね、今度、23日やったっけ。

○宗宮部長 23日ですね。

○山下副部長 あの後、例えばその仕組みというか、セットみたいなものがあるんですかね。でもあれ、あの人らのものか。

○秋山地域活動支援課長代理 業者のもの。

○山下副部長 業者のものやね。それを使ってどうのこうのというのは無理なんやね。だから、そこは無理にしても、実車で研修してっていう。多分、座学になってくると毎回来る人は一緒やし、じゃあ、本当にこの座学が意味があるかと言ったら、難しくなってきたるし、毎年になったら余計にね。

○田中（泰）委員 子育て層のほうには子育てサロンさんのほうに行ってますよね。これ、老人会もね、単位の老人会。月1回とか2カ月に1回集まられています。そこら辺に出向くというのは。

○秋山地域活動支援課長代理 警察のほうで、ふれあい喫茶とかには顔出しをされているというのは聞いていますんで。

○田中（泰）委員 それは来ていただいています、年に2回ほどね。

○秋山地域活動支援課長代理 また、老人会とかも定期的にされているのであれば、情報提供させていただいて。

○山下副部長 でも大体、老人会に行っているのは振り込め詐欺が多いですね。

○秋山地域活動支援課長代理 生活安全のほう。

○田中（泰）委員 それも関係ありますよね。

○宗宮部長 特殊詐欺がめちゃくちゃになってきているから。

○山下副部長 増えてきているんですよね。

○秋山地域活動支援課長代理　　山下委員がおっしゃっていただいていた実際の研修とか考えへんというのは、前も言っていただいていたんで、一応情報提供をして、どうしようかというのは言ってたんですが、実際、本当に夜というか暗い中でやったら危ないなというのも言ってたんで。

○山下副部長　　やって、骨、折れたと言ったら身もふたもない。本末転倒も甚だしいからね。

○秋山地域活動支援課長代理　　やったらおもしろいかなとは思いますが。

○山下副部長　　あそこの自動車教習所とかあるじゃないですか。あそこに行って、子どものエルボーとかのカバーを全部してもらって、ヘルメットもちゃんとかぶってもらって走ってみるとかそういう。それとか一本橋を渡ると言ったら厳しいから、その線と同じ幅の線を引いてまっすぐ行ってみるとか、いろいろやれる。

最初からたくさんでやるんじゃなくて、10人程度おじいちゃん、おばあちゃんを集めて一遍やってみるとかね、そんなんも。それで、いろいろノウハウをつかんで、30人単位、50人単位でできるような仕組みがつくれれば、あちこちでやってみるとかね。最初から、本来あるべき姿を求めて、それをボーンとはめ込もうとするんじゃなくて、物すごい極端な話をしたら、1人、2人のおじいちゃんを捕まえて、ちょっと実験やと言って、走らせてというところから始めたら、何か形になっていくのかなと思いますね。

○宗宮部長　　高齢者食事サービスなんかで、こんな5分、10分以上、時間をとれませんからね。そやから、地域へ来て話をしてもらおうというようになれば、今おっしゃっているようなインパクトのあるような内容で、短時間でというふうなことでしかなかなか話ができへんから、せいぜいヘルメットをかぶってくれぐらいのことしか啓発というのは無理なんで。何か区民ホールに集めてというふうな形での研修というのは、ちょっと確かにしんどいやろうなというふうに思う。

ただ一方で、自分のおやじを介護したときの経験やったり、駅前で自転車のキャン

ペーンをやっているときなんですけど、歩けないお年寄りが自転車に乗るんですよね。自転車に乗ると買い物に行けるんですよ。うちのおやじもパーキンソン病のはじめやったんですけどね、後から気が付くと。それで、歩かれへんからと言って、自転車に乗っては坂道で顔からこけるみたいなことをよくやっておったんですけどね。やっぱり、歩かれへんから自転車という選択肢で事故におうてはるお年寄りって結構おるんじゃないかなと思うんですよね。その人たちに対して、研修会であかんねんて言っただけ、なかなか通じへんというのが実態としてあるのかなという気がしますけどね。

○小川地域活動支援課長　ひとり暮らしの高齢者の方々は、買い物に行こうと思ったら自転車しかないですもんね。それをどうするかというのがありますよね。不思議ですね、うちのおじもそうなんです。

○宗宮部会長　でしょう、歩かれへんかったら自転車に乗るなよと思うねんけど。実際に危ないのは、それが一番危ないですもんね。

○小川地域活動支援課長　危ないですね。でも買い物に行こうと思ったら、それを使わないと、毎日毎日ヘルパーさんに来ていただくわけにもいかないし、自分たちが買い物について行ってあげるわけにもいかないから、難しいですね、本当に。

○宗宮部会長　有償ボランティアを活用したら。

○小川地域活動支援課長　鶴見区ならできる。

○宗宮部会長　あいまちを活用してもらうとかね。

すみません、時間的にあれなんですけど、防災のほうの話が、自主防災の定義というところから、一番最初に話があったんですけども、やっぱり自助・公助、まあ言うって。

この間、消防が来られて、災害、地震が起こったときの生存者救出のパーセンテージが、消防が助けたんが数%やと、みんな、隣近所に助けてもうとるんやという数字を聞いて、ちょっと僕も驚いたんですけど。改めて、区と連携しながら、自主防災ということをしちっと押さえておくということの重要性を、消防の話を聞いて本当に思

ったんですけど、防災リーダーの方がつまみピック、鶴見区オリジナルやと思うんですけど、相当モチベーションが高まっていると。で、競うことで、よその連合との対抗意識ということで結構楽しくやっておられるということがあるので、消防との連携の中で、競技種目をもうちょっと洗練化させるとか、定型化させて、誰でもそれをまねできて、防災リーダーだけでなく、地域の訓練でもそれを活用できるとか、すそ野を広げて、防災リーダー、地域の選手みたいな形でそこへ行って、それもぜひ褒めてやってほしいと思うんですけども、そういう動きというのは大事にしてほしいなと思いますけれども。

○河村区長 賞状だけやったらな。

○秋山地域活動支援課長代理 今、賞状だけです。

○河村区長 商品も出す。

○秋山地域活動支援課長代理 それでも、あの賞状だけでも本当に熱心で。

○山下副部長 7万円のトランシーバーください。

○宗宮部長 今、始まる前に話をしてたんですけど、うち2年かけて4台買ったんですけど、以前もらっていた区のやつというのは、見えるところでしか話ができないという、ほとんどおもちゃに近い。学校の中でやったら活用できるんですけど、それが地域になるとほとんど使えないというやつやったんですけども、去年、おとしと買ってみたら、榎本の対角線上で届くんですよ。買ってみて、ああよかったと思って。このトランシーバー、7万円もして届かんかったらどないしようかと思って買ったら、届いたんです。対角線で、真ん中に中継いるかなと思ったら、中継なしで榎本の端から端まで届くんですよ。防災用のトランシーバーということであれば、基地局の申請を出すだけでそれが整備できるということなんで、今、区と各福祉会館との間でのトランシーバーもありますけど、やっぱり一番大事になってくるのは、防災リーダーが使いこなす情報の伝達手段を持つということです。

あれもね、突然もらっても使われへんのですよ。電話と違うから、ちゃんと押さえ

てしゃべって、離して聞きなさいと言ったって、なかなかできへんのでね。やっぱりできるように訓練しておかなかったら、せっかくもらっても使い物になれへんということもありますんでね。実際に買うときに、本当によそにお勧めできるようなものなのかという不安があったんですけど、あれはお勧めできますんでね、ちょっと区のほうでも。まあ言ったらね、買ってもつかわへんわと言ったら、本当に宝の持ちぐされでもったいないですから。やっぱり使えるところには整備をするということをしてもらったらどうかなというふうに思いますね。

○山下副部長 予算、あるんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 微々たるものですけど、一応、毎年各地域のほうに、いわゆる救助資機材的なものの予算は確保しているんですね。その一部が、委員のおっしゃっていたトランシーバーに昔なっていると思うんですけど、当然、一遍に12地域にそれなりの数っていうことになると、単価がそういうふうになってきてしまうので。

今日も実際、地域防災連絡会ということで、各地域の災害救助部長と防災リーダーの隊長さんに定期的にお集まりをいただきまして、いろいろと情報共有とかさせていたでいるんですけども、その中で、今年で言うと、一応別のものという話になっているんですけど、例えばその部分を今後ですね、来年とかで一遍には無理ですけど、地域ごとで何カ年計画とか、そういうことでもお許しをいただけるのであれば、検討も可能なのかなとは。

○山下副部長 2台1セットで、例えば2台あって、これめっちゃ便利やなといったら、地域で3台目を買おうかというふうにもなってくるかもしれないし。

○秋山地域活動支援課長代理 どこまで区のほうでというのはあるんですけど。

○宗宮部長 防災訓練の前日の夜間訓練のときに、前にもらっているあまり届かないやつを、どれだけ中継して、伝言ゲームがどれだけ有効かということで、一番端は駅まで行って、第二寝屋川まで行って、榎本小学校まで間に何軒、伝言ゲームをし

たらええかというのをやっておったんですよ。そしたら、結構間にいるなど。どこへ動いてるかというのを図に落とし込めていくというのを、訓練の前日にやったんですけどね。それで、そのトランシーバーを買ったら、中継が一切いらんという。

毎年やっていると、トランシーバー、みんなうまくなりますよ。見る見るトランシーバーでのやりとりができるという。

○山下副部長 優勝賞品ですね。

○秋山地域活動支援課長代理 ちょっと頑張って考えます。

○山下副部長 頑張ってください。

○宗宮部長 あと、三師会との連携ということで、29年度の実践がありますけど、うちは北田医院から毎年、お医者さんと看護師さんが来ていただいて、三角巾とかAEDとか消防がやるようなことを、医師会のほうでやってもらうという形で登場してもらっているんですけども、具体的な三師会との連携というのはどういうことを想定されているんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 まだ詰め切れてはいたんですけども、今、イメージとして、区の震災訓練では区医師会、一緒にご協力いただいているんですけども、やっぱり歯科医師会でいうと、実際の災害のときにすぐ避難所に駆けつけてもらうようなことではないですけど、それぞれの役割とか、そのあとの歯の衛生状況の確保とか、そういうところでの協力もいただきたいと思いますし、あと、薬剤師会でいうと医師会と連携していただいて、薬の服用というのは大事なことになるので、どちらかと言うと、区災害対策本部側の訓練になるかと思うんですけども、そういうところが今、全然できていませんので、シナリオを考えて、できたらなと思っています。

○宗宮部長 それはやっぱり、訓練でも、お医者さんが来るとなればモチベーションがぐっとかわってくるやろうと思いますし、普段お医者さんに行くというのではなく、お医者さんと一緒に福祉会館でやりとりをするということになったら、がらっと

雰囲気がかわってくるのと違うかなと思いますから、三師会との連携というのもぜひ進めてほしいなと思いますね。

あと、講演会なんですけど、うちも訓練を秋にやって、大体2月に講演会という設定でやっているんですけど、講演会の内容はいいですよ、備蓄の内容を講演してもらうとか、局地豪雨とか地震のメカニズムの話をそれぞれ専門家にしてもらおうという。専門家の知見というのはやっぱり必要なものやなという形で、講演自体も値打ちのあるものやと思いますからね。

ただチャンネルが、この人をお願いしようかというのがなかなかなくて、最初のころは区役所に紹介してもらっていたんですけど、最近区役所のほうから返事がないんで独自で探していますけども、講演していただける人のメニューなんかは、備蓄しておいてもらったらええん違うかなという感じはちょっとしますね。

○小川地域活動支援課長 共有したらいいですね。ここの地域でやってよかったというのを、また教えていただいたら。

○山下副部長 今年はず前でいけるじゃないですか。熊本に行った人もいたし。

○秋山地域活動支援課長代理 それでいうと今年、28年度の実施のところで出てきていますが、去年までいわゆる避難所開設訓練ということで、小学校に集まってみんなでやってというところだったのが、いくつかの地域で、実際にこれをする意義は、じゃあどこにつながっているのかということで、災害に対する考え方とか備え方そのものを学び直したいと、今回は講演会、学ぶ座のところを重点にというのは実際に出てきています。それでいくと、例えば区役所でも実際、熊本の避難所のお手伝いに行った職員もいますので、その職員がしゃべったりすることもありますし、あとは大阪市の危機管理室でもっと大きな、大阪市的な実施のところも含めてお話をさせてもらったりとか、そういう動きは今年が出てきていますね。

○宗宮部長 陸前高田に榎本から行ったということで、小学校のほうがずっと交流してくれているんですよ。そういう切り口も大事かなというふうに思いますんで、

熊本でもぜひそういう契機ができていんじゃないかな、うちの地域との連携を探るという形で、区に持ってくるんじゃないかなと地域へぽつと落とすというようなことを考えてもらったらいいんじゃないかなと。

大分、時間が迫ってきていますが、植田さん、何かありますか。防災のことで。

○植田委員 避難のところで、高齢者とか認知症の要介護5ぐらいの人とか、また障がい者の方で、ライトハウスがうちにはあるじゃないですか。目の見えない方は情報が得にくいと思うので、地震が来ても、え、何がどうなったんだろうという感じで。中に職員の方はいらっしゃるかと思うんですけど、障がいがある方とかは、訓練とかは参加できているのかどうかかわからないんですけど、そういうときの避難経路というのはどうしていこうかと思っはるのかなと思って。

○小川地域活動支援課長 訓練でいくと、榎本さんがライトハウスと一緒に。

○宗宮部会長 榎本は町会によって、僕もライトハウスに入所されている方の、参加の意思のある方で、地域に住んでおられる方というのをライトハウスを通して情報をいただいて、実際にその方を迎えに行って、避難所の榎本小学校まで案内するというようなことはやったり。ライトハウスのほうで今、アイマスク体験というのをイベントとしてやってもらっているんですけど。

そういうお年寄りが増えてきているとか、障がいのある方に対する対応ということで、福祉事業者が地域の訓練にもう少し参加してもらえるような形というのは、具体的に求めていかないとあかんかなと思ってます。町会を軸にしたということだと、なかなか福祉事業者の方に訓練に参加してもらおうということは手が回らないということもあるかと思うんですけどね。実際に福祉避難所として受け入れてもらえる可能性もあるわけで、そこも事前に、ふだんから連携しておかないとあかんということも具体的な課題として出てきているだろうと思いますので。区が一定の役割を果たしてくれたということもあったりするんですけど、福祉事業所との連携ということも地域単独ではなかなか難しいところもあるかと思うので、区役所のほうのお仕事という

のを求めていきたいなと思います。

○秋山地域活動支援課長代理　私が去年からしかしていないのですが、少なくともここ３年ぐらいは、社会福祉協議会さんのほうが中心になるかと思うんですが、社会福祉施設連絡会が定期的に研修をしていただいていますので、そこに区役所を呼んでいただいたりもしていますので、実際にこの間も、何日でしたっけ、９月２７、２８。

○前田地域活動支援課長　そうですね、２８日。

○秋山地域活動支援課長代理　その施設連絡会のほうで、災害に対する研修をということで、HUGをやりました。福祉事業所というか施設そのものなので、そこが収容避難所になることは実際にはないんですけれども、ただ収容避難所において心配されているような要介護度の高い方を、福祉避難所ということで受け入れてもらうこともあり得ますので、一度、各地域が災害時に避難所として開設するにあたってどんな訓練などを行っているかを体験していただくということで、３０事業所ぐらい来ていただいたのと、あと、連絡が区役所のほうも全地域に広げられなかったんですけど、多分５地域ぐらいかな、地域防災リーダーさんも含めて何カ所か、ご連絡できたところについては地域の方も来ていただいて、テーブルを包括支援センターの地域割りをしましたんで、その事業所に地域の方が実際に入ってもらって、短い時間ですけども顔合わせとか一緒に考えていただくようなものをさせていただきました。

○田中（泰）委員　うちはやっていますよ。実際に、福祉避難所として利用してくださいということで話もついていますし、事業所としてちゃんとそういう備蓄関係は全部できているし、なおかつ福祉避難所としての受け入れ態勢も整えているからということで、万が一のときはどうぞというお話はちゃんとできていますからね。

○秋山地域活動支援課長代理　そうですね、そこがなかなかできていないというところもあるということで。

○山下副部長　多分、場所がらもあると思うんですけどね、真ん中になると福祉関係の事業所も多いんでね。

○秋山地域活動支援課長代理　　今回、社会福祉協議会のほうでも、あえて地域の方にもご参加いただけないかということで。ただ、ご相談いただいた中で全地域になかなかお知らせする時間がなかったんで、何かでこちらが行けたりとか、お顔合わせをできた地域にだけお伝えしてしまった状態ではあるんですけど。またそこは来年も多分、やってくださいということになると思うので。

○山下副部長　　できるところからやってもらえたらいいと思いますよ。おいおいやってもらって、確実に全地域にできるようにしていただいたら、それは急がない。急ぐ時間よりも、ちゃんとやることのほうが大事だと思うんで。

○植田委員　　高齢者がどんどん増えていく10年後、15年、20年になったらもう下がってくると思うんやけど、そのときに準備できているようにということで、私自身が赤十字の大阪府支社の子ども子育てと高齢者の方のボランティアをさせてもらっているんですけど、今年に入って、あなたたちはもう防災ボランティアだからと。その中に入っているけど、いつ何があるかわからない防災ボランティアだから、今日はそういう研修をしますと言われて、ええっみたいな感じだったんですけど、ああ、それはそうだなと。人口がどんどん高齢化になっていくんだから、子どものことしかしませんとか、高齢者の方しかしませんというボランティアが必要なんじゃなくって、さまざまな対応ができるボランティアになっていかなくてはいけない。だから、今おっしゃっているように、そういうふうにして準備をきっちり進めていかれることが、鶴見区が本当に盤石になって強化されていくことじゃないかなと。

○山下副部長　　今、地域は中学生、そういう考え方でいっていますよね。昼間の時間帯に地域には中学生がいるからという考え方で。横堤とか茨田南とかは確か中学生が大分出ているように思いますけどね。

○宗宮部長　　中学生の防災訓練、頑張ってもらわんと。

○山下副部長　　回数を重ねたらね。1回やって、うまいこといくいかへんあると思うし、やっぱり続けることでしょうね。

○宗宮部会長 ただ、訓練では物すごい頼もしいですよ、中学生、高校生というのはね。

○山下副部会長 それこそマインドが出てくると思います。やっぱり取り組んで繰り返すことによってね。

○宗宮部会長 でね、中学生が来たら、親が来ますからね。

○山下副部会長 いいことですよ。やり続けないと。

○宗宮部会長 もう時間が押していますが、何か。

○田中（泰）委員 区の備蓄品ってありますよね。その賞味期限が切れた場合、破棄されると。

○秋山地域活動支援課長代理 有効活用できるようにはなるべくしているんですけども、例えば地域のほうで取組みをされる中で、もし時期が合うのであればお出ししたり。

○山下副部会長 防災訓練のたびにもらいますよね、大体。

○田中（泰）委員 去年はいただけなかったです。

○秋山地域活動支援課長代理 そうなんですよ。もともとで言うと、区でも備蓄しているんですけど、大阪府とか大阪市のものもあるので、それを今まではいろいろともらえていたんですけど、なかなか在庫の期限の年数によって。

○田中（泰）委員 そしたら、破棄するとかはないんですね。

○秋山地域活動支援課長代理 最終的に破棄になってしまうものはあり得るんですけど。

○田中（泰）委員 もったいないですよ。

○秋山地域活動支援課長代理 できるだけ有効活用するようには言われています。

○田中（泰）委員 今年は茨田北では小学校の土曜授業と地域の防災訓練を合体させてやろうと。

○宗宮部会長 いいですね。

○田中（泰）委員　　すごく大変なんですけどやろうとしております。それで、私の立場からしたら、生徒700人いるんですけど、防災食の体験をさせてあげたいなと思ひまして、700人と計算すると結構高つくんです。それで、もしも余ってありましたら。

○山下副部会長　　いらんものあったら、ちょうだいという。

○秋山地域活動支援課長代理　　区役所のほうがね、ちょうでないんです、実は。危機管理室にもう一回聞いたんですよ。去年はそれでないと言われたけど、今年はどうですかと言ったら、熊本のほうに送っていますんで、本当にないって言われました。

○山下副部会長　　逆に言うと新しくなったんや。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうですね、足らずを入れてくれはったんかなと。

○西口委員　　防災食ってアルファ米とかそういうことですか。

○山下副部会長　　アルファ米。段ボールに開けてお湯を入れるやつ。

○西口委員　　防災訓練のとき、ないって言われましたね。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうなんです、去年に全地域にお願いをされていてそういう状態だったんで、今年はどうかなと思って聞いたら。

○田中（泰）委員　　その前にたくさんいただけたんで、甘い考えだったんです。去年だめで、今年は欲しいなと思っているんですけど。

○秋山地域活動支援課長代理　　すいません、ないんですよ。一応さっき確認しましたけど。

○田中（泰）委員　　破棄されると聞いたらもったいと思います、それはないですよ。わかりました。

○宗宮部会長　　去年から、うち、間仕切りくんと言って、それ用の段ボールを間仕切りするやつ、真空パックしたやつを備蓄倉庫に入れています。今年はそれを使ってみようかなと思っているんですけどね。

○山下副部会長　　ちょっといいですか。いろいろやっていただいているんですけど、

どっちかと言ったら今までハードの部分ですね、防犯カメラの設置とかというところが大分進んでいるんで、あとはマインドというか啓発の部分ですね。これをちょっと力入れていかなあかんのと違うかなと思うんですよ。

やっぱりアンケートを見ていてもそうなんですけど、アンケートの防災・防犯の意識のところで、高齢者や若い子どもたちが安全で暮らせるような鶴見区にしてほしい、防犯カメラを設置してほしいとなっているね。それで、防災にかかわるイベントをやってもらって見てみたいとか、犯罪が起こらないような対策をしてほしいって、全部受け身なんですよね、区民自身が。ほぼ全員の区民がね。

だから、極端な話、鶴見区民全員が防災リーダーであり、防犯委員であるというマインドを持てるような啓発活動をしていくと。持続的にずっと長くしていくためにはと思ってみると、広報つるみに毎月、安全安心掲示板みたいなのをつくって、もう徹底的にやると。来年1年間に関してはね、4月から再来年の3月まで。やっても往々にして、こんなんやりましたよ、あんなんやりましたよっていう報告が記事になりがちなんですけど、そういう記事は一切やめて、今月はこういう、例えば交通安全週間だから自転車マナーを気をつけましょうとか、そういう啓発のほうに重点的にいって、5月は地域安全部会あります、6月になったら何やろうかな、だからかかわるとしたら警察、消防ぐらいか。

○秋山地域活動支援課長代理 あと、建設局もあると思いますね。

○山下副部長 警察でも、交通と生活安全とあるじゃないですか。だから、交通安全にかかわる分と、防犯にかかわる分、で消防と、区役所と、4ネタ元があるから、12回で3つずつ、1年間決めちゃう。4月は責任編集誰、5月は誰、6月は誰って、もう決めちゃう。例えば9月なら、今は交通安全週間だから、警察の交通安全のほうでこういうことをやって、ああいうことをやって、こういうことをやりますからと。

そうそう、この間聞いていたら、自転車の赤切符、鶴見警察管内でもう30枚切っているんですって。

○宗宮部会長 あ、そうですか。30枚も。

○山下副部会長 あれが始まってから。そこまでちゃんとやっていますよと言うんですよ。でも我々知らないでしょう。実際2枚切られて、講習会に行っている人もおるそうですわ。罰金やったかな、赤紙やから結構な罰金らしくって、講習会に6,000円ほど払って。そういうことを実は警察もちゃんとやっていますよという話。だから、そういうことも僕知らなかったから、1枚ものでもいいからそういう情報を流してくればいいのにとこの話をしたんですけど。

○西口委員 確かにそれ必要と思いますね。前から思うのは、自転車の信号無視が相変わらず多いんですよね。だから、こういう取り締まり、赤紙やないけど啓発になるのであれば、広報か何かで載せていただいて、やっていただいたほうが。あ、気をつけようというのが目的なんでね、生の声というか結果というか、やっぱりそれを載せていただけたら。

○山下副部会長 そういうこともネタにしたりして行って、やっているんだよとか、こうやってくださいよとか、1月は神戸の大地震があったから、地震にかかわる記事を集めるとかそういうふうな。極端な話、裏一面全部、防犯の。いやいや、極端ですよ。でも、それぐらいやるだけの価値が防犯・防災にはあるはずなんです。だから、区長の面を取っちゃうかもしれないけど、区長にはこれぐらい置いておいて。

○河村区長 次出る号はそうなる。

○山下副部会長 来年度でいいんで、来年の4月ぐらいから1年間かけて。それで、毎月、毎月って面倒くさいでしょう。だから連絡会をやって、生活安全、交通、消防、区役所、4つ集まって、もう1年間通して決めちゃおう。それが楽でいいです。で、広報を巻き込んじゃう。そして、裏一面全部それにしちゃう、それはうそですけど。周知徹底の仕方がね、徹底的にやるとかね、そうするといいんじゃないかなと。

○植田委員 言葉尻を取って、決めつけではダメなんですけれども、何とかしましょうという感じでしないと、僕の勝手なあれですけど、ゆとり世代の人たちが何か言

っているのかなみたいな文章が見えたので、そういう人たちって、全員が全員じゃないんですけど、何かしてもらうんだとか、助けてもらえるみたいな、そういう方が私の周りが多いんで、そういう考えじゃなくて、大変なときにこうしていかないといけないよ、ああしていかないといけないんだよということを、区としてガーンと押し出していたでいてるほうが、そやそや、うちはお米が足りていなかったなとか言って、備蓄とかできるんじゃないのかなと。区からもらえるから私ら別にええわみたいな感じになっているとえらいことになってしまうような。

○山下副部長 今、そなんあったっけ。あまりないね。部分部分ではあるけど。

○秋山地域活動支援課長代理 防災でいくと、8月号は特集で年1回バーンと、防災マップと一緒に、備蓄をこんなんしておいたほうがいいですよとかいうのは出していますけど。確かに、定期的に、啓発的なところでは広報紙を使ってはいないですね。

○山下副部長 せっかくの全戸配布なんだから、それは住民啓発に。

○河村区長 ある程度、テーマは決めて最近はやるようにしているんですけど。その時々シーズンのネタ。

○秋山地域活動支援課長代理 区長コラムのところで、交通安全を入れさせていただいたりとか。

○河村区長 だから、そなんもあるし、自転車衝突している写真とかも出してもらったりとか。

○秋山地域活動支援課長代理 そういう特徴的な。

○山下副部長 それをもっとインパクトがあるように、毎月この部分はそれってしちゃうとインパクトがあるのと違うかなと思いますけどね。

○植田委員 私、委員をさせていただきだしてから見ていても、めり張りを感じます。わかりやすく、それまではそんなに委員の意識がなかったから普通に読んでいたんですけど、させてもらってから見だすと、多分、ここのポイントを区が言いたいんだろうなというのがわかってくるようになってきました。

○山下副部長 広報頑張っているんですね。

○小川地域活動支援課長 広報の中で、私、去年一年間やっていて、来年はテーマを決めてやろうかなというのがあったんで、今ちょっと引き継いではもらっているんですけど、確かに、この面を見たらこれが毎月載っているというのは、やりたいなどは前から思っていました。ただ紙面が、やっぱりボリュームがすごいので、その辺が予算との兼ね合いもあるんですけど、皆さんからもご要望をいただいたということで、広報担当のほうへ引き継いでいきたいと思います。

○山下副部長 毎月、このページのこの面はこれが載っているというのはやっぱり。ここから先に行こうと思ったら啓発しかないと思うのでね。

だから、さっきの自転車の話やないけど、たとえ3分でも自転車から離れるときは鍵をかけましょうというような打ちだしをこの面でしていくとかね。全戸配布なんだから、大人も子どもも見るとし、やってくれているねんという区民に対する訴求もできるやろうし。

○小川地域活動支援課長 また、地域もそれぞれ広報を出し始めてくださっていますので、そこに引き継いで載せていただくとかね。載せていきたいですね。

○山下副部長 というのがいいんじゃないかなと思います。

○宗宮部長 やっぱり広報の力というのが大きいですね。広報の中で、区民の声をこれだけ区として取り上げていますよということで。その上で、区としてこういうことを訴えたいんだという内容を相互にやりとりするという意味での広報というのは物すごい大事ですよ。やっていることが地に足をつけていくためには、そういう伝達、情報というのは物すごく大事なことであります。

今日も非常にお話が盛り上がって、幾つかの提言めいたこともお話ししていただいたと思います。今日は議員の先生は来られていないんですけど、その分も含めて、区長のほうからまとめのお話をいただきたいと思います。

○河村区長 本当に長時間、いつも時間めいいっぱい、いろんな意見を出していた

だいてありがとうございます。

今日は安全なまちづくりということで、防犯・防災の観点からいろんなお話をいただきましたけども、本当に切り口はいっぱいあって、課題も多岐にわたりますけど、切り口も先ほどおっしゃいましたように、ハード面からのものもあればソフト面からのものもあります。また、今まで継続してやってきた事業の中でも、引き続きやるべきものと、その中でもメニューをかえていったり、スパイスをちょっとかえていったりとかいうのもあると思います。なので、29年度については、これまでのものを漫然とするのではなくて、継続するべきところは継続して、そういう観点で、今日いただいた意見を参考にさせていただきながら、よりよいメニューづくりをまたしていきたいなと思っております。

また、今日いただいた意見はまとめさせていただいて、今日は限られた時間の中でしたので、後でお気づきになった点とか、もうちょっとこれを言っておいたらよかったなという点が、多分おありだと思いますんで、またその辺のご意見もいただく機会を設けさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

今日は本当に、いろいろ貴重なご意見をありがとうございました。

○宗宮部会長 ありがとうございます。最後に区役所のほうから事務連絡。

○前田地域活動支援課長 本当に本日は多くの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。それでは、ホッチキスどめの一番後のページ、申しわけありません、ご説明するのがもれておりましたので、今後の鶴見区運営方針と予算のスケジュールでございますが、今年、平成28年度につきましては、本日の鶴見区の主な事業の取組みの方向性の説明を行いました後、11月初旬に鶴見区運営方針素案についての説明及び意見聴取ということで各部会のほうを開いてまいりたいと思います。

11月中旬に鶴見区の運営方針の素案の作成を行いまして、予算要求調書の提出も行ってまいりたいということでございます。12月初旬に鶴見区の運営方針素案に対する各部会での報告及び意見聴取ということで、全体会を開催してまいりたいと思いま

す。来年の話なんですが、２９年の２月中旬か下旬ごろには、鶴見区運営方針の案と予算の案の説明ということで、また全体会を行いたいと思います。その後、市会で審議を行いまして、３月下旬には鶴見区の運営方針と予算を確定してまいりたいと思っていますので、当面、今度は１１月の初旬にまた各部会を、この部会も開きたいと思っていますので、大体ばくつとした日程でも構わないので、この辺が都合が悪いとかいうのが、もし今、おわかりであれば教えていただければと思います。

○宗宮部会長　これで鶴見区区政会議第２回防犯防災部会を閉会したいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

閉会　２０時５９分